

共産党市議団 6月定例市議会・一般質問

市民の願いは新病院の早期建設



写真は市議会ホームページから
昨年の市長選では、現野洲病院敷地内での建替えを主張した市長ですが、市長就任後、自ら設置し、任命した委員で構成されている「市民病院整備運営評議委員会」から「建替えは事实上不可能」の結論が出されました。これに対し、市長は駅前

野並市議は、新病院建設問題で、議会で議論をすればするほど、市長の方針が二転三転し、混迷矛盾が深まっている新病院問題について、「市民の切実な願いは駅前（Aブロック）での建設。市長はこの立場に立ち早期建設すべき」と求めました。

（Bブロック）を含む市内3か所を候補地に提案しました。しかし、自ら提案した、Bブロックを否定する発言など迷走していました。その中で去る5月28日の市議会・市民病院整備事業特別委員会で「国からの交付金もあり、Bブロックで」と、およそ慎重な検討をしたとはうかがえないほど混迷しています。

野並市議は「市長が駅前（Bブロック）での方向を示したが、当初案のAブロックは既に実施設計もできており、なによりも、早期建設を願う市民に応えるもの」として、Aブロックでの建設を求めました。これに対して市長は「市民から、便利な駅前に早期建設との声は聞いている」と言いながら、「Aブロックは、賑わいと収税を図るところ」として、あくまでAブロックでの建設を否定しました。しかし、賑わいと収税となる具体的方針は全く示すことができませんでした。

このように実現不可能なBブロックに「固執」し、混迷を深める市政に対して定例市議会では、

6月定例議会は17日から21日まで一般質問が行われました。共産党市議団（工藤・野並・東郷）は、市民から寄せられた願いを質問しました。その中で野並市議は、「二転三転し迷走する新病院問題について、市長を正し、その上で、「早期建設を願う市民の立場に立ち、野洲駅前・南北口（Aブロック）の建設をすすめよ」と求めました。



「東京オリンピック・パラリンピック中止」意見書など3本を提案しました

共産党市議団は定例議会で議案提案権を生かし、3本の意見書を提案します。意見書は最終日30日の本会議で採決されます。採択に向けがんばります。意見書は以下の通りです。「コロナ禍のもとで東京五輪（オリンピック・パラリンピックは中止・延期の決断を求める意見書）」「放射性汚染水の海洋放出を2年後に行うことに中止を求める意見書」「老朽原発再稼働に反対する意見書」です。

